

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105628
事業所名	グループホーム すみれの丘
(ユニット名)	うみユニット
記入者(管理者)	
氏名	徳田 由紀美
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 31 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 玄関は施錠せず、自由に入出入りできるようにする。コロナウイルス感染症の感染予防の為、来客時はインターホンを押して頂き、職員が対応することで、現在は玄関に施錠はしていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 梅津寺の高台に事業所は立地し、各階にあるウッドデッキから瀬戸内海を絶景を一望することができる。夏には、リビングの窓を開けると気持ちの良い海風が入るほか、三津浜の花火大会を楽しむことができる。事業所の裏にはみかん山があり、生育状況も見られ、四季の移り変わりを感じることができる。また、各ユニットには、トイレやシャワー室のある2つの特別室が設けられ、希望する利用者に対応している。利用者の好みのメニューや旬の食材を取り入れた手作りの食事は利用者好評で、ご飯のお代わりをすることができるようするなど、少しでも食事が楽しめるような支援も行われている。さらに、月間体調一覧表などを活用して、職員は利用者一人ひとりの健康状態を把握し、主治医に相談しながら、体調管理に努めている。利用者が重度化した場合には、医療機関との連携や看取り支援のチーム体制を整え、家族の協力を得ながら、希望に応じた看取り支援も行われている。今後は、家族や地域住民との交流を徐々に再開し、事業所の理念にある「その人らしい生活」を大切にしながら、より一層利用者と職員と一緒に穏やかな生活が送れるような支援が行われることも期待される。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前や入居時に思いや暮らし方の希望を聞き把握している。急な希望でも対応している。	○	/	○	入居時に、センター方式のアセスメントシートを活用し、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後も、日々の会話や行動から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、面会時を活用して、家族から意向を聞くとともに、利用者の思いや情報などを確認している。新たに把握した情報は、介護記録に記載し、職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃の会話から利用者の思いを探るように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族様には面会時「利用者の思い」について話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者からお聞きした事は介護記録に記入し職員全員が共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	利用者とのコミュニケーションを図り、言動や思いをくみとれるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にセンター方式シートを使用し家族やケアマネジャーから情報収集し把握に努めている。	/	/	○	入居時に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員からサービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。また、日々の生活の中で、新たな情報を聞くこともある。さらに、家族の面会時には、「昔は乗り物が苦手だったので、外出した際に目を離すと、どこかへ行ってしまうのではないかと心配していた」などの情報を聞き、外出時には、行方不明にならないようにワンツーマンで対応するなどの対応も行われている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	精神状態や残存機能の把握等、職員間で共有できるように話し合っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録に日々のリズムや言動を記録し把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者や家族に確認し、本人に必要な支援ができるよう検討している。	/	/	○	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、主治医から意見やアドバイスをもらっている。また、利用者ごとの担当職員を配置するほか、ホーム長が全ての職員から一人ひとりの利用者の情報を確認するようにしている。さらに、アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者の視点に立ちより良いサービスが提供できるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	日々の記録、利用者の言動から困りごとの把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者だけでなく家族からも情報を得て、対応している。	/	/	/	介護計画の作成時には、職員は利用者や家族から意見や意向を聞くほか、主治医から意見やアドバイスをもらっている。また、利用者のアセスメント情報をもとに、ユニット会議を活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。さらに、家族から「体を動かすようにしてほしい」などの出された意見を反映して、利用者の身体運動機能に応じて、レクリエーションや体操を計画の中に取り入れて、実践をしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者からの聞き取りや家族が来所された時に聞き、職員全員でアイデアを出し検討している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居以前の事を家族からお聞きし、プランに取り入れて実行できるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で地域の協力体制は出来なかったが、家族とは手紙やリモートでの面会を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日ケアプラン評価表を活用し職員全員が把握・理解実践できるようにしている。	/	/	◎	介護計画とアセスメント表は、ユニットごとに一冊のファイルに綴じられ、職員はいつでも計画の内容を確認できるようになっている。また、ケアプラン評価表を活用して、介護計画に沿ったサービス実施の有無を○×の印を付けて確認するとともに、×の時には、その理由を記載して評価を行いやすくするなど、今後のより良い計画づくりや支援に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプラン評価表に出来なかった理由を記入するようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護記録の期間に応じて見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しをしている。月1回のユニット会議を活用して、利用者一人ひとりの現状を確認している。また、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、随時家族や主治医に報告して意見をもらうとともに、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会議において一人ずつケアプランの確認、見直しを行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化にともない家族・職員と共に見直しを行い、ケアプランを作り直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ユニット会議を行い、全員が統一したケアを行えるようにしている。	/	/	◎	事業所では、午後のミーティングやユニット会議を活用して、利用者一人ひとりの課題などの解決に向けて、職員間で話し合いをしている。また、緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。会議に職員が参加しやすいように、事前に日程調整をしているもの、参加できる職員は少ない状況が続く、参加できなかった職員には議事録で内容を確認してもらっている。会議に職員の参加が少ないことは、恒常的な人員不足が原因にも考えられるため、法人の代表者と相談しながら、人材不足が解消に繋げていくことも期待される。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	要望など職員に聞き、自分の意見を言えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	日程など工夫しているが全員参加に至っていないが、内容は記録に残し全員が確認できるようにしている。	/	/	△	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個別の介護記録・口頭での申し送り・ノートからも確認できるようにしている。	/	/	◎	朝の申し送り時や午後のミーティングを活用して、情報伝達すべき内容は口頭で伝達している。また、申し送りノートに記録を残し、出勤時に確認して、確認後に職員は押印するなど、確実な情報伝達に繋げている。申し送りノートには、重要事項を赤字で記載するなど、分かりやすい工夫を見ることができた。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者からお聞きしたり、ケアプランに取り入れ実行できるようにしている。	/	/	/	着る服やご飯のお代わり、その日の入浴の有無など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。また、家族から知り得た利用者の趣味などを参考に支援に繋げたり、昔話などの話題提供を行ったりするなど、生き活きた利用者の言動や表情が引き出せるような声かけや雰囲気づくりも行われている。訪問調査月には、職員は音楽セラピーを計画し、「利用者一人ひとりの心身の状況に応じた楽器を手渡し、楽しい時間を過ごしたい」と考えている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声かけ環境作りを努めている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴など拒否があれば時間や日にちをずらし快く応じて下さるよう支援している。	/	/	/	
		d	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者一人ひとりに合わせた声かけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身での反応を観察し利用者の思いを探り支援するよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修に参加し職員全員で「人権」「尊厳」について学び誇りやプライバシーを大切に声かけをしている。	/	◎	◎	内部研修を実施して、人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員の理解促進に努めている。また、トイレ誘導時には、耳元でさりげなく声をかけて誘導したり、排泄時にはタオルや膝掛けを使用して羞恥心に配慮したりするなどの対応をしている。さらに、職員は居室を利用者専用の場所と理解し、居室の入室時に職員はノックや声かけをしてから入室するとともに、利用者の不在時にも、事前に声をかけてから入室するよう配慮している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ドアを閉めタオルや膝掛けを用意しプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声かけなどプライバシーに配慮し出入りを行っている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修に参加しプライバシー保護や個人情報漏えい防止を理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳んで頂いたりモップ掛けをして頂いた後は、その都度感謝の気持ちをお伝えしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握し、気の合う利用者同士を同じテーブルに配席するなどの配慮をしている。トラブルが発生しそうな場合には、職員が早期に間に入って声かけをしたり、場所を移動して、双方の話を聞いたりするなど、気分転換が図れるような対応をしている。また、食事の際に、食事の声かけや配膳、下膳、テーブル拭きなどを、利用者同士が協力し合う場面も見られる。さらに、下膳や洗濯物たたみ、モップかけなどを手伝ってもらった場合には、職員から利用者へ感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食事の声かけ、下膳など協力し合って頂けるよう配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	気の合う利用者同士同じテーブルに座って頂いたり、トラブルになりそうな時は職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	両者から話しを聞きトラブル解消に努め不安を取り除くよう支援している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	センター方式を活用し人間関係の把握に努めている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍により外出が制限されたり、感染状況による場所や時間の制限はあったが面会もできるよう支援している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	晴れの日には感染予防に配慮し、散歩やドライブ等軽度・軽度関係なく平等に出かけられるよう取り組んだ。	◎	△	○	事業所の敷地に通じる道は急な坂道で、利用者が事業所周辺を散歩することは難しい環境にあるものの、天気の良い日には車いすの利用者も一緒に、隣接する施設の敷地内を散歩したり、ベランダやテラスに出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、訪問調査月の先月には、利用者全員が公園にドライブに出かけることができ、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍により家族、地域の人やボランティアなどの協力を得ることはあまりできなかった。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修や勉強会に参加し認知症や行動・心理症状について理解し状態や症状の変化を見逃さないようにしている。	/	/	/	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことの把握し、職員間で共有をしている。入浴時に、利用者にタオルを手渡して胸部などを自身で洗ってもらい、手の届きにくい背中や洗身などのできない部分のサポートをしている。また、ラジオ体操や散歩などを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりのケアプランの中に身体能力に応じたプランを作成し、身体機能の低下を予防や維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	過剰介護にならないよう本人の意欲を発揮できるよう働きかけている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	趣味や特技を把握し、一人ひとりに合った活動ができるようプランを立て実行している。	/	/	/	洗濯物たたみや廊下のモップかけ、配膳、下膳、テーブル拭きなど、職員は利用者の得意なことやできることを見つけ、役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、利用者一人ひとりの好きなことや楽しみごとを把握し、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	重度になっても一人ひとりの楽しみや役割や出番を作ることができるようプランに取り入れている。	◎	△	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	家族や利用者から好みをお聞きし一人ひとりの個性を大切にしている。				化粧をしたり、アクセサリーを身につけたりするなど、おしゃれを楽しむことができる利用者もいる。食事の際に、エプロンは着用せず、必要に応じて、膝にタオルを置くなどの配慮をしている。また、衣服の汚れが見られた場合には、職員がさりげなく拭き取るなどのフォローしたり、居室へ移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持って来てもらったり、訪問美容のスタッフに伝えて、好みの髪型や髪の長さを整えてもらったりするなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	◎	個性を尊重し利用者の好みで整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	利用者の気持ちに寄り添いアドバイスを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	行事や季節に合わせた服装を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	衣類の汚れた時には自尊心を傷つけないよう十分に配慮し清潔でいられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	感染対策が十分に出来ている業者で訪問カットを利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	モーニングケアや入浴後など利用者らしさを保てるよう支援している。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会の参加やミーティングなど全職員で知識向上に努めている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会の参加やミーティングなど全職員で知識向上に努めている。				法人の栄養士が献立を作成し、利用者に配膳や下膳、テーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。利用者から「〇〇が食べたい」という希望が出された場合には、臨機応変に献立を変更するなどの対応をするとともに、多くの利用者が好きなうなぎは、月1回程度提供し、利用者に喜ばれている。芋炊きや栗ご飯などの季節を感じるメニューのほか、大根などの旬の野菜を多く取り入れている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材を把握し、必要に応じて、代替品を用意している。また、茶碗や湯飲み、箸など、入居時に使い慣れた物を持参してもらい、使用している。破損した場合には、家族に依頼し、再度持ってきてもらうようにしている。コロナ禍以前は、食事の際に、職員は利用者と同じテーブルを囲んで食事を摂ることができていたが、感染対策や食事介助が必要な利用者が増え、職員は見守りやサポートを行い、別々に食事を摂るようになっていた。訪問調査日には、リビングから調理の音や匂いが漂い、職員がキッチンのカウンターに料理したおかずを並べる様子を、待ち遠しそにする車いすの利用者を見ることができた。さらに、職員は利用者の体重の増減や歯の具合などの健康状態を話し合い、利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食などの食の形態にも対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳・下膳・テーブル拭きなど行って頂いている。献立づくりは、利用者からの要望をお聞きし取り入れている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	感謝の気持ちをお伝えし利用者の自信につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者や家族に好き嫌いやアレルギーをお聞きし把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	◎	季節に応じ旬の物を取り入れ利用者の好みに合わせ考えている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの健康状態に合わせて調理している。ミキサー食の方にも彩りや盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族に協力して使い慣れたものを使って頂いている。また使いやすい物を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助が必要な利用者が多い為食事を一緒に食べることが難しい。食べこぼしなどに対する見守り・サポートを行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理の音やにおいを通して食事を楽しみにして頂くようにしている。時にはカウンターから食事作りをしながら味見を頂いたり、会話をしたりしている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分量が少ない利用者がおられたら摂取量を記録し確保できるよう努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者の好みの飲み物を用意したり回数やタイミングの工夫を行っている。必要な利用者には栄養補助食品を提供し低栄養にならないよう配慮している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士による献立は作られている。個別に体重の増減や血圧は落ち着いているかなど配慮しながら調理している。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材により調理器具を別にしている。食材は新鮮で安全な物を提供している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加したりユニット会議で知識の習得を行い理解できている。	/	/	/	毎食後に、職員は利用者に声かけやジュースチャーを行い、リビングにある洗面台に移動してもらい、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。中には、状態に合わせて、スポンジブラシを使用して、口腔ケアをしている利用者もいる。また、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を把握し、異常が見られた場合は、早期の訪問歯科の治療に繋げている。さらに、歯科医からブラッシング方法や義歯の装置方法などを学び、職員は口腔ケアの重要性を理解するとともに、夕食後に義歯を預かるなどの清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの際、口の中の状態を把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医が診察に來られた際アドバイス頂き、正しいケアができています。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	ブラッシング方法や装着の仕方を学び適切に行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	見守りや声かけを行い自分ができる利用者にはケアを行って頂いている。仕上げはスタッフがを行い口腔内の観察を行っている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄管理表を活用し、排泄パターンを把握し時間誘導を行うなど失敗のないよう支援している。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。排泄管理表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導するとともに、状態に合わせて、職員は利用者に声かけをするなど、可能な限り、利用者が布パンツを履き、生活が送れるよう支援している。入居時に、紙パンツにパッドを使用していた利用者が、職員がこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツとパッドの使用に改善された事例もある。また、利用者の状態に合ったパッドや紙パンツなどの排泄用品が使用できるように職員間で話し合うとともに、利用者や家族と相談をしながら、適切な用品が選択できるようにしている。さらに、水分補給や食物繊維、乳製品を多く取り入れるなど工夫を行い、利用者の自然排便を促す取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会やミーティングに参加し知識の習得に努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表を活用しパターンや習慣を把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレで排泄することを基本として支援している。オムツやパットについては必要性や適切性を十分話し合っている。	/	◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量や食事量をチェックし要因・原因を探り改善できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄管理表を活用し排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	一人ひとりの排泄パターンを報告し、家族や本人と話し合い自分で使えるものを選択できるようアドバイスしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状態に合わせた下着やオムツを使用している。定期的に職員間で話し合い見直しを行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給や体操など一人ひとりの状態に合わせて支援している。食事のメニューにも乳製品や植物繊維を多く取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。	/	◎	○	1階と2階にある浴室には入浴リフトが導入され、利用者の状態に合わせて活用し、安心安全に入浴できるよう支援している。週2回、午前中の時間帯を基本として、利用者は入浴することができる。また、湯の温度など、利用者の健康状態に応じて、柔軟に対応するとともに、入浴剤を使用するなど、少しでも入浴が楽しめるよう工夫をしている。中には、入浴を拒む利用者もおり、無理強いすることなく、時間帯や日にちを変更したり、工夫した声かけをしたりするなどの支援を行い、入浴してもらうことができている。さらに、皮膚の弱い利用者には、ボディソープを替えたり、手で泡を作って洗身をしたり、皮膚が乾燥している利用者には、入浴後にワセリンを塗布するなどの配慮した支援も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	プライバシーの保護に努めリラックスして入浴して頂いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	残存機能を活かしてできないところは職員が介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否する利用者には時間や日にちをずらし入浴して頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い健康状態の確認を行い入浴の可否を見極め入浴後の状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	2時間毎の巡回を行い、睡眠パターンを把握している。				介護記録や申し送り時などを活用して、夜間に眠れない利用者の情報を職員間で共有するとともに、外気浴や足浴を取り入れたり、日中の過ごし方や支援内容を工夫したりするなど、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。中には、支援を行う上で、眠剤などの減薬に繋がった利用者もいるが、不眠が続き日常生活に支障をきたす場合には、主治医に相談し、服薬に繋がることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、時には就寝前に足浴を行うことにより生活リズムが整うよう支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	むやみに薬に頼らず、利用者の活動量や日中の過ごし方を職員間で話し合い検討し、主治医にも相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	1日1回居室で休めるよう配慮している。日中睡眠を取りすぎないように配慮している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。	◎	携帯電話を持たれている利用者もおられ家族といつでも会話されている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	代筆や電話の取り次ぎを行い手助けしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の希望・家族の理解があれば、いつでも電話できるよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者宛の手紙などは利用者にお渡し、字が読めない利用者には了解を得て読むなど行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話かけることに了解を頂いているが、仕事をしているなどもあり難しいケースもある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自己管理の必要性やお金を使うことにより脳の刺激・活性化を理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	職員が同行し気兼ねなく安心して買い物ができるよう支援しているがコロナ禍であまりできていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり使えるようにしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お出かけや行事の際あらかじめ家族からの了解を得ている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事前にすべての家族の同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	習い事に参加できるなどの支援にも努めている。	◎		○	コロナ禍以前は、利用者の習い事の希望に対応し、外部の方に来訪をお願いすることができたが、感染対策のために休止をしている。感染対策が緩和され、職員は買い物支援や通院介助など、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、希望に応じて、家族の協力を得ながら、外出や外食ができるようになってきている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関に花を飾ったり気軽に出入りしやすいよう配慮している。	◎	○	○	玄関前には、いすが置かれているほか、プランターに季節の花が植えられ、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。天気のいい日には、玄関ドアが開放され、玄関ホールの様子を屋外から見る事ができるなど、気軽に入れるような配慮も行われている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	共有スペースは、広くゆとりのある空間となっている。利用者と一緒に毎月壁画を作成し季節に合ったものを展示している。	◎	○	◎	各階にウッドデッキが設置され、利用者は海を眺めたり、外気浴をしたりするなど、座ってくつろぐことができる。1階には広いテラスもあり、全ての利用者が一緒に芋炊きなどを楽しむこともある。また、広い窓からは明るく暖かい日差しが入り、南側に面したリビングには音楽が流され、ソファを置くなど、利用者は思い思いの居心地の良い場所、ゆったりと過ごすことができる。壁には、紅葉の切り紙など季節の飾りつけをしているほか、事業所の裏にはみかん山があり、生育状況も見られるなど、利用者は四季の移り変わりを感じることができる。さらに、毎日職員は利用者と一緒に掃除を行い、換気や加湿器を設置するなど、快適な空間となるよう努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレの汚れはすぐに清掃し常に清潔を保つようしている。	◎	◎	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ベランダからは瀬戸内海が一望でき、南向きに面した前面ガラス窓の大変明るい居心地の良い空間になっている。	◎	◎	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはソファを置いてくつろげる環境を作っている。	◎	◎	◎	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室は馴染みの家具や写真を置き利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	◎	◎	居室には、電動ベッドやクローゼット、カーテン、エアコンなどが備え付けられている。利用者は、使い慣れた机やイス、ソファ、テレビを持ち込むことができ、家族の写真などを飾るなど、職員は利用者や家族と相談しながら、居心地良く過ごせるような空間づくりを支援している。中には、トイレやシャワー設備を備えた特別室も設置されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	廊下や浴室・トイレには手すりを設置し安全面にも配慮している。「できること」「わかること」を一人ひとり把握し混乱や失敗を防ぎ自立した生活が送れるよう工夫している。	◎	◎	◎	居室の入り口には、氏名が書かれた表札を設置されているほか、トイレや浴室には、大きな字で表示を行うなど、利用者が混乱しないよう工夫をしている。自分の居室を認識できる場合には、表札を外している利用者もいる。また、リビングには、利用者の手の届く場所に新聞や本などが置かれ、毎日新聞を読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や本などいつでも手に取れるよう配慮している。	◎	◎	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	鍵をかけることのデメリットを勉強会で理解できている。また玄関に鍵をかけず家族や地域の方が自由に入出入りできるよう配慮している。	×	△	○	職員は勉強会などを通して、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に玄関や1階のユニット入り口は施錠していないが、2階のユニット入り口は、階段からの転落防止のため、施錠を行い、センサーチャイムが鳴れば開錠するようにしている。外出願望のある利用者には、一緒に外に出て歩いたり、話を聞いたりするなどの対応をしている。コロナ禍や感染対策が続き、家族の来訪する機会が減少していることもあり、利用者家族等アンケート結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、家族の面会時や運営推進会議時に現状を報告して理解を得るとともに、2階のユニット入り口の鍵をかけない暮らしについて、職員間で検討していくことも期待される。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関・ユニット出入り口は鍵をかけず自由な暮らしができるようにしている。施錠を望む家族には十分に説明し理解を得ている。	◎	◎	◎	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントや往診記録の確認を常に把握できるようにしている。	◎	◎	◎	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行い介護記録を利用し詳細を記録している。	◎	◎	◎	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでもかかりつけ医に報告・相談できるように連携体制が整っている。	◎	◎	◎	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望医療機関があれば意向に添えるよう支援している。	◎	◎	◎	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族、本人の希望を確認しかかりつけ医と連携し医療を受けられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院への同行が可能であればお願いし、できなかった時は詳細をお伝えしていることで共有している。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日常生活の内容や既往歴等のサマリー提供や口頭情報提供をしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	蜜に連絡をとり、日頃から連携を整え万全な体制で受け入れられるよう情報交換、相談に努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の気づきを看護職や訪問看護師に報告し相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職や協力医療機関にいつでも相談できる体制が整っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化があった時に適切に指示を仰ぐことができおり、早期発見・治療ができています。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人別に薬ボードを作成している。薬の目的・副作用がわかるように記載し、細かく状態観察、記録を行い変化があれば家族や主治医に報告している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	複数の職員が確認を行うマニュアルができています。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日の申し送り、記録で状態変化の気づき早期に発見できるようにしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や必要な時期に終末期について話し合いを行い、その意向を話し合いながら方針を共有できている。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合の対応における指針」を整備し、入居時に、利用者や家族に説明を行い、同意を得ている。利用者の状態が悪化した場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。また、24時間体制で、医師や訪問看護との連携が図られ、かつ職員の協力を得ながら、看取りの支援体制を整えている。令和5年にも2名の看取り支援が行われ、最期を迎える際に、希望に応じるとともに、家族の思いに配慮して、居室内で利用者と家族と一緒に過ごせるような対応も行われている。さらに、看取り支援後には、全ての職員で対応方法などを振り返るとともに、職員のケアや不安軽減にも努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	利用者・家族だけでなく職員・医療関係者で話し合い方針を共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握し、不安のない体制で対応できるよう指導している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の対応方針について十分な説明を行い、理解を得ることができている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療関係者と連携を図りながら支援していく体制を整えている。また今後の変化に備えて検討もしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情、事情を受け止め精神面での支えになれるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会やショートミーティングで感染症に対する研修を定期的に行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応は学んだことを活かして速やかに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政や医療機関、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の発生状況の情報を得ることができている。また情報収集に努め随時対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・利用者は手洗い・うがい・マスクの着用を徹底しており、面会者が来られても手洗い・うがい・マスクが着用できるよう準備している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望をお聞きし一緒に検討し、利用者を支えていくようにしている。				コロナ禍以前は、事業所のテラスを活用して、家族会を実施するほか、花火大会や夏祭りなどの行事の際に、利用者と家族と一緒に食事をしたり、花火を鑑賞したりするなどの交流を図ることもできていたが、現在は感染対策等もあり、行事や家族会の開催は自粛している。家族との面会は、2階にあるホールで対応している。また、毎月利用者の体重の増減や血液検査結果、内服薬の増減、歯の状況から刻み食に変更したこと、そうめん流し時の利用者の表情や言葉などの情報を詳細に記載した書面に併せて、写真を添えて家族に送付し、利用者の近況や様子を伝えている。さらに、事業所の外壁塗装工事などの事業所の出来事は、運営推進会議や毎月のお便りで報告をするほか、家族の来訪時に、新人職員や異動した職員を紹介している。加えて、家族の来訪時に、職員は気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に意見や希望を伝え、相談できるような雰囲気づくりをしていること、家族から多くの意見や希望が寄せられ、可能な範囲で柔軟に対応をしている。今後、ホーム長は「感染状況を見ながら、行事や居室での面会などを再開したい」と考えている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	以前は、夏祭りや花火大会には利用者と食事をしたり花火を見るなど一緒に楽しんで頂いていたが、コロナ禍により家族の参加は控えて頂いている。	◎		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等」)	◎	毎月のお便りで近況報告を行っている。面会時には記録を見て頂きながら日常の様子を伝えている。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時にはさりげなく伺うようにしている。意見箱を設置し不安内容などの収集に努めている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	認知症についての理解を深めて頂き、適切な接し方や対応について話し合うようにしている。		○			○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	体調変化に伴うリスクについてを説明し利用者にとっての良い対応策を話し合い理解して頂いている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に相談して頂けるような声かけや雰囲気づくりを努めている。以前は家族が訪れたときにはお茶を提供しゆっくりと過ごしていただけるよう対応していたが感染対策ができる2階ホールで面会していただいている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には文章と合わせて説明補足を行い理解し納得して頂けるようにしている。改定がある場合はその都度、文書と口頭で説明し同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	体調面で施設の生活が困難になった症例があった。入院先の主治医と家族と一緒に話し合いを行い納得して頂いた。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。			○	以前は、地域の盆踊りや運動会、秋祭り、文化祭などに利用者と一緒に参加し、地域住民と交流を図ることができていた。今年は、マスクを常時着用できる利用者数名と職員が一緒に、盆踊りや運動会などの地域行事に参加することができ、利用者に喜ばれている。秋祭りの際に、神輿の来訪があり、利用者の喜ぶ顔を見ることができた。また、事業所は町内会までは加入していないものの、地域の清掃の回覧が届いた際に、職員は参加協力をしたり、利用者が行方不明になった際に、町内放送をお願して、呼びかけてもらったりするなどの関係性も築かれている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事や活動への参加をすることで地域の方々との交流が図れている。(盆踊り・運動会・秋祭り・文化祭・町内清掃など)			○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	必要時には町内放送をして頂ける関係作りができている。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	夏祭りや花火大会行事などにお誘っていたがコロナ禍により自粛している。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に立ち寄って頂けるよう運営推進会議の時に働きかけている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍により自粛していたが少しずつ支援して頂けるよう働きかけを行っている。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍により協力して頂くのが難しくなっていたが、徐々に安全で豊かな暮らしができるよう地域の商店や美容院に協力していただけるよう働きかけを行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	活動内容等を報告し様々な意見やアドバイスを頂いている。	◎	/	○	コロナ禍以前に、運営推進会議は利用者や家族、町内会長、公民館館長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者などの多く参加を得て開催することができていた。コロナ禍や感染対策が続き、事前に会議の参加メンバーや全ての家族に用紙を送付して、意見を返信してもらい、その内容をもとに職員間で話し合った後に、議事録を送付している。令和5年10月から、働いている家族が多いことを考慮し、休日に集合形式の会議を再開したが、家族の参加状況は少なくなっている。今後ホーム長は、「家族の会議への参加が増やせるように、交通手段がない家族への支援などを検討していきたい」と考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	毎回利用者の状況や活動・出来事を報告している。外部評価の内容・目標達成計画の内容と取り組みを文章と口頭で報告している。参加者全員に感想や意見を伺い日々の取り組みやサービス向上に活かせるようにしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーが参加しやすい曜日や時間帯について配慮している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し全員が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすい玄関の入り口に掲示し、家族・利用者・地域の方々にも理念を伝えている。	×	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員全体が法人・内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	積極的に内外の研修への職員の参加を促し、研修終了後のユニット会議を活用して、伝達報告をしたり、資料を回覧して情報共有を図ったりするなど、職員のスキルアップに取り組んでいる。また、一人ひとりに自己評価をしてもらい、職員自らが向上心を持って働けるよう努めている。さらに、令和5年の年末には、福利厚生で忘年会を実施することを予定している。現在、人材不足により職員が有給休暇を取得しにくい状況となっているが、ホーム長は、日頃から職員の状況を把握し、話を聞いたり、相談に応じたりするなど、体調管理やストレスの軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が働きながらスキルアップできるよう積極的に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員に自己評価してもらい個々の努力や実績・勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地区のグループホーム連絡会やケアマネ合同研修会に参加し交流をしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフとの面談する機会をつくり、体調やストレスについて問題ないか配慮している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	内部・外部研修に参加し虐待防止について学び、日頃の事例で検討する機会を設けている。虐待や不適切なケアの事例に基づいた勉強会やミーティングで意見交換を行っている。	/	/	◎	内外の研修に参加して、虐待防止などを職員は学んでいる。また、日々のミーティングを活用して、事例にもとに、不適切な言動を職員間で話し合うなど、理解促進に努めている。さらに、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ホーム長に報告し、内容に応じてミーティングやユニット会議を活用して、職員間で情報共有を行い、注意喚起や再発予防に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のミーティングでケアの疑問点や意見を話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員と面談を行い、疲労やストレスを感じていないか把握するようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を設け資料を配布して全ての職員が理解できるようにしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について話し合いの場を設け身体適正化委員会を実施している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望があっても、利用者の及ぼす弊害について説明し拘束を行わないケアの具体的な内容を示し理解を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	内部研修や外部研修で知識・理解を深めている。また、家族からの相談があれば情報を提供する準備はしている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターに相談できる関係づくりを築けている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	利用者の急変時の対応はマニュアルを作成し落ち着いた対応できる体制を整えている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急隊より指導を受け、実践できるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書作成しその日のうちに話し合い、ユニット会議でも再検討し事故防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎日のミーティングや勉強会で話し合い、安全な環境整備・ケアの仕方に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し職員は周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談・苦情があればマニュアルに添って早急に対応し書面に残すようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、事実確認を行い謝罪し今後の方針を伝え納得して頂けるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時などに話しやすい雰囲気・環境作りを行い、積極的に意見、要望、苦情をお聞きするようにしている。	◎		○	日々の会話の中で、利用者から「大根の煮物が食べたい」などの希望が出され、メニューを変更して対応するなど、可能な範囲で柔軟かつ迅速に対応をしている。面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族から意見や要望を聞くように努めており、意見を伝えてくれることも多くなっている。また、玄関に意見箱を設置しているが、コロナ禍で家族の来訪する機会が少なかったこともあり、投函されない状況が続いている。さらに、ホーム長は職員とのコミュニケーションを図ることを大切に考え、意見を伝えやすく、気軽に相談に応じるなどの環境づくりに努めている。職員から、「2階ホールに冷房がなく、暑いので対策してほしい」という意見が出され、設計上エアコンの設置は困難なため、冷風機を設置して快適な空間に改善するなどの対応も行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に意見箱を設置し、投函できるようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運び、職員の見解や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	自ら現場に足を運び、職員の見解や要望・提案などを直接聞くようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は一人ひとりから意見や提案を聞く機会をもち、利用者本意の支援をしている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、ホーム長が取りまとめて作成をしている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍が続き、職員のみでの会議が続いていたこともあり、目標達成状況の取り組み状況のモニターの協力してもらうまでには至っていない。訪問調査の前月の令和5年10月から集合形式の会議が開催できるようになり、今後は目標達成へ向けた取り組み状況のモニターを呼びかけたり、利用者の様子を見てもらい、意見をもらったりするなど、出された意見を反映させながら、サービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題や問題点が明らかになると早急に毎日のミーティングやユニット会議で話し合っている。実現可能な目標を話し合い事業所全体で達成できるよう取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。報告し、いつでも閲覧できるよう施設内にて掲示している。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内で取り組みの成果について確認するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の対応マニュアルを作成し周知に努めている。	/	/	/	年2回、消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練を実施している。高台に立地する事業所は、土砂崩れの恐れもあるため、定期的に担架を使用し、1階から2階への垂直の避難訓練も行われている。また、水や食料、物品などの備蓄品を保管し、定期的に点検をしている。さらに、廊下には防災マップや避難経路図を掲示している。以前には、地区の防災訓練に、職員と利用者が一緒に参加協力をしたこともある。集合形式の運営推進会議が再開されたこともあり、継続して参加メンバーや家族と一緒に、災害の備えの意見交換をするなど、協力支援体制の強化に繋げていくことも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づき、様々な時間を想定し安全に避難できるよう訓練している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品など定期的に点検している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議の際消防署の方から訓練の仕方や避難方式等教えて頂き、訓練を行っている。	△	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の防災訓練があれば利用者も一緒に参加するようにしている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	内部・外部研修に参加し運営推進会議などでテーマとして取り上げ講習を行っている。	/	/	/	以前は、集合形式の運営推進会議の中で、認知症や脳梗塞などをテーマに取り上げた勉強会や意見交換をしたり、地域の公民館で地域住民を対象に、認知症のことを話し合ったりするなど、情報発信や啓発を行う機会を設けることができていた。現在は、地域の介護支援専門員や会議のメンバーから相談が寄せられ、対応する程度に留まっている。また、会議や研修に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることはできている。今後ホーム長は、「感染状況が落ち着いた際に、実習やボランティアの受け入れに協力したり、市行政や地域包括支援センターから要請があれば、協力していきたい」などと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議の際、相談や支援が行えることを伝えている。	/	/	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍で夏祭りなどのイベントを開催出来ず交流の場を広げられなかった。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護人材やボランティアの養成があれば受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域関係者に働きかけ、イベントや地域活動に参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 17 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105628
事業所名	グループホーム すみれの丘
(ユニット名)	そらユニット
記入者(管理者)	
氏名	徳田 由紀美
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 31 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 玄関は施錠せず、自由に入出入りできるようにする。コロナウイルス感染症の感染予防の為、来客時はインターホンを押して頂き、職員が対応することで、現在は玄関に施錠はしていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 梅津寺の高台に事業所は立地し、各階にあるウッドデッキから瀬戸内海を絶景を一望することができる。夏には、リビングの窓を開けると気持ちの良い海風が入るほか、三津浜の花火大会を楽しむことができる。事業所の裏にはみかん山があり、生育状況も見られ、四季の移り変わりを感じることができる。また、各ユニットには、トイレやシャワー室のある2つの特別室が設けられ、希望する利用者に対応している。利用者の好みのメニューや旬の食材を取り入れた手作りの食事は利用者好評で、ご飯のお代わりをすることができるようするなど、少しでも食事が楽しめるような支援も行われている。さらに、月間体調一覧表などを活用して、職員は利用者一人ひとりの健康状態を把握し、主治医に相談しながら、体調管理に努めている。利用者が重度化した場合には、医療機関との連携や看取り支援のチーム体制を整え、家族の協力を得ながら、希望に応じた看取り支援も行われている。今後は、家族や地域住民との交流を徐々に再開し、事業所の理念にある「その人らしい生活」を大切にしながら、より一層利用者と職員と一緒に穏やかな生活が送れるような支援が行われることも期待される。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者や家族とコミュニケーションをとり、意向の把握している。	○	/	○	入居時に、センター方式のアセスメントシートを活用し、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後も、日々の会話や行動から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、面会時を活用して、家族から意向を聞くとともに、利用者の思いや情報などを確認している。新たに把握した情報は、介護記録に記載し、職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴や家族に確認し、利用者目線で検討するようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族・友人が面会に来られた際、利用者の希望等があれば伝えて頂くようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録、ケアプラン評価に記入し、情報共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	利用者とのコミュニケーションを図り、言葉や行動からも思いをくみとれるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にセンター方式シートを使用し家族やケアマネジャーから情報収集し把握に努めている。	/	/	○	入居時に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員からサービスの利用経緯や状況などの情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーの提供を受けることもある。また、日々の生活の中で、新たな情報を聞くこともある。さらに、家族の面会時には、「昔は乗り物が苦手だったので、外出した際に目を離すと、どこかへ行ってしまうのではないかと心配していた」などの情報を聞き、外出時には、行方不明にならないようワンツーマンで対応するなどの対応も行われている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の様子を記録に残し不安による要因や状況を職員間で話し合うことで把握できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録を活用し、日々のリズムや言動を記録し把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者や家族に確認し、本人に必要な支援ができるよう検討している。	/	/	○	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、主治医から意見やアドバイスをもらっている。また、利用者ごとの担当職員を配置するほか、ホーム長が全ての職員から一人ひとりの利用者の情報を確認するようにしている。さらに、アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者の視点に立つてより良いサービスが提供できるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	日々の記録、利用者の言動から困りごとの把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者の思いや意向をケアプランの内容としている。	/	/	/	介護計画の作成時には、職員は利用者や家族から意見や意向を聞くほか、主治医から意見やアドバイスをもらっている。また、利用者のアセスメント情報をもとに、ユニット会議を活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。さらに、家族から体を動かすようにしてほしいなどの出された意見を反映して、利用者の身体運動機能に応じて、レクリエーションや体操を計画の中に取り入れて、実践をしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者らしく暮らすためにそれぞれの立場から意見やアイデアを頂きケアプランを作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	利用者にあった暮らしができるように家族にも協力して頂いている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域の人たちの協力体制のもと地域行事に参加している。(運動会・文化祭・盆踊り等)	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月末、月初めのショートミーティングで確認を行い実践できるよう情報共有を行っている。	/	/	◎	介護計画とアセスメント表は、ユニットごとに一冊のファイルに綴じられ、職員はいつでも計画の内容を確認できるようになっている。また、ケアプラン評価表を活用して、介護計画に沿ったサービス実施の有無を○×の印を付けて確認するとともに、×の時には、その理由を記載して評価を行いやすくするなど、今後のより良い計画づくりや支援に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日ケアプラン評価表をつけ、ユニット会議で評価を行い日々の支援につなげている。利用者の言動等具体的に介護記録に残している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護記録の期間に応じて見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しをしている。月1回のユニット会議を活用して、利用者一人ひとりの現状を確認している。また、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、随時家族や主治医に報告して意見をもらうとともに、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会議で計画内容の評価を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後や変更申請後など利用者の心身状態の変化が生じた際には計画の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のユニット会議にはもちろん、事故報告・ヒヤリハット案件にはその都度話し合いをもっている。	/	/	◎	事業所では、午後のミーティングやユニット会議を活用して、利用者一人ひとりの課題などの解決に向けて、職員間で話し合いをしている。また、緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。会議に職員が参加しやすいように、事前に日程調整をしているものの、参加できる職員は少ない状況が続く、参加できなかった職員には議事録で内容を確認してもらっている。会議に職員の参加が少ないことは、恒常的な人員不足が原因にも考えられるため、法人の代表者と相談しながら、人材不足が解消に繋げていくことも期待される。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	日頃のケアのあり方やケアプラン評価等、職員間で意見交換できる雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	出来るだけ多数の職員が参加できるようにしているが全員は参加できていない。不参加の職員は議事録の確認、ユニット長から報告を聞いている。	/	/	△	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	出勤時に口頭での申し送り及び申し送りノート、介護記録を行っている。	◎	/	◎	朝の申し送り時や午後のミーティングを活用して、情報伝達すべき内容は口頭で伝達している。また、申し送りノートに記録を残し、出勤時に確認して、確認後に職員は押印するなど、確実な情報伝達に繋げている。申し送りノートには、重要事項を赤字で記載するなど、分かりやすい工夫を見ることができた。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者、家族からの聞き取りをしてプランにし職員がサポートや声かけをして実行できるようにしている。	/	/	/	着る服やご飯のお代わり、その日の入浴の有無など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。また、家族から知り得た利用者の趣味などを参考に支援に繋げたり、昔話などの話題提供を行ったりするなど、生き生きとした利用者の言動や表情が引き出せるような声かけや雰囲気づくりも行われている。訪問調査月には、職員は音楽セラピーを計画し、「利用者一人ひとりの心身の状況に応じた楽器を手渡し、楽しい時間を過ごしたい」と考えている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの際の洋服はできるだけ利用者を選んで頂いている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の生活ベースに合わせた支援を職員が把握し無理強ひせず利用者に合わせて支援するようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が明るく活動的に声かけすることで日々穏やかで楽しい雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々の表情や全身での反応を観察し、言葉にできない訴えを表情から読みとるように日頃から関わっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修や勉強会で「人権」「尊厳」について学んでいる。利用者の誇りやプライバシーを大切に声かけや態度に努めている。利用者一人ひとりに敬意を払い場所、場面に考慮した声かけや対応に努めている。	◎	○	◎	内部研修を実施して、人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員の理解促進に努めている。また、トイレ誘導時には、耳元でさりげなく声をかけて誘導したり、排泄時にはタオルや膝掛けを使用して羞恥心に配慮したりするなどの対応をしている。さらに、職員は居室を利用者専用の場所と理解し、居室の入室時に職員はノックや声かけをしてから入室するとともに、利用者の不在時にも、事前に声をかけてから入室するよう配慮している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時入浴時に見合った誘導や更衣介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時には必ずノック声かけをしてから入室するようにしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修や勉強会などで学び、個人情報漏えい防止について理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事を一緒に行う中で習慣や風習を教えて頂いている。感謝の気持ちとその都度伝えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握し、気の合う利用者同士を同じテーブルに配席するなどの配慮をしている。トラブルが発生しそうな場合には、職員が早期に間に入って声かけをしたり、場所を移動して、双方の話を聞いたりするなど、気分転換が図れるような対応をしている。また、食事の際に、食事の声かけや配膳、下膳、テーブル拭きなどを、利用者同士が協力し合う場面も見られる。さらに、下膳や洗濯物たたみ、モップかけなどを手伝ってもらった場合には、職員から利用者へ感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が助け合い、支えあって暮らしていくことの大切さを充分理解できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	気の合う利用者は席を隣り同士にしたり、トラブルになりそうな時は職員が間に入り孤立しないよう見守り、利用者全員が楽しめるようにしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	ざりげなく双方から話を聞きどちらにも不快なく収まるよう解決策をとっている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時にセンター方式のシートに記入して頂くことで利用者を取り巻く人間関係を把握している。利用者はもちろん家族にも入所時や面会時にお聞きし把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍により外出が制限されたり感染状況による場所や時間の制限はあるが面会もできるよう支援している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は散歩をしたり、雨の日には他ユニットへ行ったりしている。重度の利用者も平等に外出できるようにしている。	◎	△	○	事業所の敷地に通じる道は急な坂道で、利用者が事業所周辺を散歩することは難しい環境にあるものの、天気のいい日には車いすの利用者も一緒に、隣接する施設の敷地内を散歩したり、ベランダやテラスに出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、訪問調査月の先月には、利用者全員が公園にドライブに出かけることができ、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍により家族、地域の人やボランティアの協力を得ることはあまりできなかった。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修や勉強会に参加し認知症の症状や行動について理解を深め症状を引き起こす要因をひもとき取り除くケアをしている。	/	/	/	日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことの把握し、職員間で共有をしている。入浴時に、利用者にタオルを手渡して胸部などを自身で洗ってもらい、手の届きにくい背中や洗身などのできない部分のサポートをしている。また、ラジオ体操や散歩などを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるように取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	職員全員が一人ひとりの身体機能の特徴を把握し、日常生活の中で維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	本人の残存機能を活かし意欲を發揮できるような働きかけをしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者の趣味・生活歴から一人ひとり楽しみを持った活動ができるようプランを立て実行している。	/	/	/	洗濯物たたみや廊下のモップかけ、配膳、下膳、テーブル拭きなど、職員は利用者の得意なことやできることを見つけ、役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、利用者一人ひとりの好きなことや楽しみごとを把握し、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	重度になっても残存機能を活用し役割などが持てるよう働きかけ意欲的な生活ができるよう支援している。また重度の利用者にも楽しみごとを見つけ楽しみのある生活が送れるよう支援している。	◎	△	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者・家族に希望を聞き、お化粧品やアクセサリーを身につけおしゃれを楽しませている。	/	/	/	化粧品をしたり、アクセサリーを身につけたりするなど、おしゃれを楽しむことができる利用者もいる。食事の際に、エプロンは着用せず、必要に応じて、膝にタオルを置くなどの配慮をしている。また、衣服の汚れが見られた場合には、職員がさりげなく拭き取るなどのフォローしたり、居室へ移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、家族に好みの服を持って来てもらったり、訪問美容のスタッフに伝えて、好みの髪型や髪の長さを整えてもらったりするなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	◎	一人ひとりの個性を大切に髪型や服装・持ち物など利用者の好みで整えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	選択肢を出したりアドバイスや時には一緒に考えたりすることで利用者の気持ちにそって支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節や場所に応じて利用者と相談しながら、その人らしい服装を楽しめるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	衣類が汚れた際には自尊心を傷つけないようさりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	利用者・家族の希望により、行きつけの店に行けるよう支援している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	モーニングケアや入浴後など髪型や服装に気を配り、本人らしさが保てるよう工夫している。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	ショートミーティングや研修会の参加で大切さを理解している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	ショートミーティングや研修会の参加で大切さを理解している。	/	/	/	法人の栄養士が献立を作成し、利用者へ配膳や下膳、テーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。利用者から「〇〇が食べたい」という希望が出された場合には、臨機応変に献立を変更するなどの対応をするとともに、多くの利用者が好きなうなぎは、月1回程度提供し、利用者にも喜ばれている。芋炊きや栗ご飯などの季節を感じるメニューのほか、大根などの旬の野菜を多く取り入れている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材を把握し、必要に応じて、代替品を用意している。また、茶碗や湯飲み、箸など、入居時に使い慣れた物を持参してもらい、使用している。破損した場合には、家族に依頼し、再度持ってきてもらうようにしている。コロナ禍以前は、食事の際に、職員は利用者と同じテーブルを囲んで食事を摂ることができていたが、感染対策や食事介助が必要な利用者が増え、職員は見守りやサポートを行い、別々に食事を摂るようになっていた。訪問調査日には、リビングから調理の音や匂いが漂い、職員がキッチンのカウンターに料理したおかずを並べる様子を、待ち遠しそうにする車いすの利用者を見ることができた。さらに、職員は利用者の体重の増減や歯の具合などの健康状態を話し合い、利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食などの食の形態にも対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者のADL低下もあり、一緒に調理を行うことは衛生上難しい。後片付けは一緒に行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	配膳・下膳・食器拭きをして頂くことで自信・達成感につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時に嗜好品・アレルギーの確認をしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	◎	旬の食材を使用し、季節感のある献立や行事食を取り入れるようにしている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	この咀嚼や嚥下状態に合わせた調理方法をし、彩りにも気をつけながら盛り付けている。ミキサー食も彩りに配慮している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居前には、使い慣れた箸や茶碗等を用意して頂き使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助が必要な利用者がある為、同じ食卓を囲むことは難しい。外出時などはできる限り一緒に食事している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	台所の対面キッチンで調理中に利用者とのコミュニケーションをとりながら、常に行っている。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々の食事量に合わせた配膳を心がけている。食事には必ず汁物を作り水分摂取できるようにしている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の好む飲み物で水分摂取できるように工夫したり、細めに水分が摂れるように声かけを行っている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士による献立は作られている。栄養バランスが偏らないように食材を選び調理している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	肉や野菜の調理器具を別にし消毒を行い新鮮な食材を使用し、日常的に衛生管理に努めている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加し職員全体が知識の習得を行い、口腔ケアの必要性・重要性を理解している。				毎食後に、職員は利用者に声かけやジェスチャーを行い、リビングにある洗面台に移動してもらい、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。中には、状態に合わせて、スポンジブラシを使用して、口腔ケアをしている利用者もいる。また、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を把握し、異常が見られた場合は、早期の訪問歯科の治療に繋げている。さらに、歯科医からブラッシング方法や義歯の装置方法などを学び、職員は口腔ケアの重要性を理解するとともに、夕食後に義歯を預かるなどの清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後利用者の口腔ケアを行い、口腔内の健康状況の把握に努めている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科診療の際、口腔ケアの方法を学びブラッシング方法や助言支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の脱装着やブラッシング方法を助言したり介助している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後口腔ケアを行い利用者のADLに応じた支援をしている。必要時には訪問歯科診療を受けている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	むやみにオムツやパッドを使用せずなるべく自立での排泄ができるように配慮している。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。排泄管理表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導するとともに、状態に合わせて、職員は利用者に声かけをするなど、可能な限り、利用者が布パンツを履き、生活が送れるよう支援している。入居時に、紙パンツにパッドを使用していた利用者が、職員がこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツとパッドの使用に改善された事例もある。また、利用者の状態に合ったパッドや紙パンツなどの排泄用品が使用できるように職員間で話し合うとともに、利用者や家族と相談をしながら、適切な用品が選択できるようにしている。さらに、水分補給や食物繊維、乳製品を多く取り入れるなど工夫を行い、利用者の自然排便を促す取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	加齢と体質によるものと思われる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表を利用し排泄パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	おむつの必要性について日常的に職員間で話し合い利用者の状態にあった支援を行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	トイレ表示をしたり食事中であっても排泄を優先している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄管理表を活用し1日の排泄パターンを把握して声かけ誘導できている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄量や体力に合わせて状況、状態によって使い分けができています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状況、状態に合わせて固定せずに変更できている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品の摂取やマッサージなど薬に頼らない自然排便を促す取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望や習慣に合わせて入浴予定表を作っている。	◎		○	1階と2階にある浴室には入浴リフトが導入され、利用者の状態に合わせて活用し、安心安全に入浴できるよう支援している。週2回、午前中の時間帯を基本として、利用者は入浴することができる。また、湯の温度など、利用者の健康状態に応じて、柔軟に対応するとともに、入浴剤を使用するなど、少しでも入浴が楽しめるよう工夫をしている。中には、入浴を拒む利用者もおり、無理強いすることなく、時間帯や日にちを変更したり、工夫した声かけをしたりするなどの支援を行い、入浴してもらうことができている。さらに、皮膚の弱い利用者には、ボディソープを替えたり、手で泡を作って洗身をしたり、皮膚が乾燥している利用者には、入浴後にワセリンを塗布するなどの配慮した支援も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	希望する湯加減に調整しゆったり浸かれるようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できるところは本人に洗髪、洗身を行っていただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	気分がのらず体調不良など訴えがある時は日にちをずらしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定と観察により入浴の可否の判断をして入浴後の状態も確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録や申し送りを通して把握している。	/	/	/	介護記録や申し送り時などを活用して、夜間に眠れない利用者の情報を職員間で共有するとともに、外気浴や足浴を取り入れたり、日中の過ごし方や支援内容を工夫したりするなど、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。中には、支援を行う上で、眠剤などの減薬に繋がった利用者もいるが、不眠が続き日常生活に支障をきたす場合には、主治医に相談し、服薬に繋がることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動や会話を増やすことにより生活リズムが整うよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	利用者の言動や行動、睡眠状態を把握し日中の支援内容を検討するようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝以外の時間であっても必要に応じて居室で休めるようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族同士での手紙のやりとりを支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人の希望に応じて代筆や電話の取次ぎを行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の了解を得た上で本人の好きな時に電話ができるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族に電話をかけた手紙を出せるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入居時に家族と話し合い協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自己管理の必要性やお金を使うことにより脳の刺激・活性化を理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	お出かけや買い物の際にお金を使う機会を作っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり使えるようにしている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	あらかじめ家族と十分に話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金額の設定や報告方法について本人、家族から同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況やニーズに対応して柔軟な支援ができる体制を整えている。	◎	/	○	コロナ禍以前は、利用者の習い事の希望に対応し、外部の方に来訪をお願いすることができたが、感染対策のために休止をしている。感染対策が緩和され、職員は買い物支援や通院介助など、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、希望に応じて、家族の協力を得ながら、外出や外食ができるようになってきている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には花や季節の飾りを設置して気軽に入りやすいように工夫している。	◎	○	○	玄関前には、いすが置かれているほか、プランターに季節の花が植えられ、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。天気のいい日には、玄関ドアが開放され、玄関ホールの様子を屋外から見るができるなど、気軽に入れるような配慮も行われている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	広くてゆとりのある空間の中に温かみのある家具や調度品を配置して落ち着いた気分で過ごせるようにしている。	◎	○	◎	各階にウッドデッキが設置され、利用者は海を眺めたり、外気浴をしたりするなど、座ってくつろぐことができる。1階には広いテラスもあり、全ての利用者が一緒に芋炊きなどを楽しむこともある。また、広い窓からは明るく暖かい日差しが入り、南側に面したリビングには音楽が流され、ソファを置くなど、利用者は思い思いの居心地の良い場所、ゆったりと過ごすことができる。壁には、紅葉の切り紙など季節の飾りつけをしているほか、事業所の裏にはみかん山があり、生育状況も見られるなど、利用者は四季の移り変わりを感じることができる。さらに、毎日職員は利用者と一緒に掃除を行い、換気や加湿器を設置するなど、快適な空間となるよう努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の清掃により清潔保持を心がけている。	◎	◎	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングでは季節感のある飾りつけやリラックスできる音楽をかけるなど日常的に心地良さを感じられるように配慮している。	◎	◎	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングでは気の合う利用者同士で過ごせる座り位置も工夫している。	◎	◎	◎	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた家具や家族写真を飾り快適に過ごせる配慮をしている。	◎	◎	◎	居室には、電動ベッドやクローゼット、カーテン、エアコンなどが備え付けられている。利用者は、使い慣れた机やイス、ソファ、テレビを持ち込むことができ、家族の写真を飾るなど、職員は利用者や家族と相談しながら、居心地良く過ごせるような空間づくりを支援している。中には、トイレやシャワー設備を備えた特別室も設置されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	個々の状態を把握食事の下膳や洗濯量等、スタッフと一緒にできる家事を行えるようにしている。絵や文字で分かり易いように工夫している。	◎	◎	◎	居室の入り口には、氏名が書かれた表札を設置されているほか、トイレや浴室には、大きな字で表示を行うなど、利用者が混乱しないよう工夫をしている。自分の居室を認識できる場合には、表札を外している利用者もいる。また、リビングには、利用者の手の届く場所に新聞や本などが置かれ、毎日新聞を読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や本、CD等手に届くところに置いている。	◎	◎	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	基本、自由出入りしていただきたいが、階段からの転落防止の為、戸口施錠している。要望があれば開閉をすぐに行う対応をしている。	×	△	○	職員は勉強会などを通して、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に玄関や1階のユニット入り口は施錠していないが、2階のユニット入り口は、階段からの転落防止のため、施錠を行い、センサーチャイムが鳴れば開錠するようにしている。外出願望のある利用者には、一緒に外に出て歩いたり、話を聞いたりするなどの対応をしている。コロナ禍や感染対策が続き、家族の来訪する機会が減少していることもあり、利用者家族等アンケート結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、家族の面会時や運営推進会議時に現状を報告して理解を得るとともに、2階のユニット入り口の鍵をかけない暮らしについて、職員間で検討していくことも期待される。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関・ユニット出入り口は鍵をかけず自由な暮らしができるようにしている。施錠を望む家族には十分に説明し理解を得ている。	◎	◎	◎	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントや往診記録の確認を常に把握できるようにしている。	◎	◎	◎	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行い介護記録を利用し詳細を記録している。	◎	◎	◎	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでもかかりつけ医に報告、相談できるように連携体制が整っている。	◎	◎	◎	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望医療機関があれば意向に添えるよう支援している。	◎	◎	◎	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族、本人の希望を確認しかかりつけ医と連携し医療を受けられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院への同行が可能であればお願いし、できなかった時は詳細をお伝えしていることで共有している。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日常生活の内容や既往歴等のサマリー提供や口頭情報提供をしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	蜜に連絡をとり、日頃から連携を整え万全な体制で受け入れられるよう情報交換、相談に努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の気づきを看護職や訪問看護師に報告し相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職や協力医療機関にいつでも相談できる体制が整っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化があった時に適切に指示を仰ぐことができおり、早期発見・治療ができています。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人別に薬ボードを作成している。薬の目的・副作用がわかるように記載し、細かく状態観察、記録を行い変化があれば家族や主治医に報告している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	複数の職員が確認を行うマニュアルができています。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日の申し送り、記録で状態変化の気づき早期に発見できるようにしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や必要な時期に終末期について話し合いを行い、その意向を話し合いながら方針を共有できている。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合の対応における指針」を整備し、入居時に、利用者や家族に説明を行い、同意を得ている。利用者の状態が悪化した場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。また、24時間体制で、医師や訪問看護との連携が図られ、かつ職員の協力を得ながら、看取りの支援体制を整えている。令和5年にも2名の看取り支援が行われ、最期を迎える際に、希望に応じるとともに、家族の思いに配慮して、居室内で利用者と家族と一緒に過ごせるような対応も行われている。さらに、看取り支援後には、全ての職員で対応方法などを振り返るとともに、職員のケアや不安軽減にも努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	利用者・家族だけでなく職員・医療関係者で話し合い方針を共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握し、不安のない体制で対応できるよう指導している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の対応方針について十分な説明を行い、理解を得ることができている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療関係者と連携を図りながら支援していく体制を整えている。また今後の変化に備えて検討もしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情、事情を受け止め精神面での支えになれるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会やショートミーティングで感染症に対する研修を定期的に行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応は学んだことを活かして速やかに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政や医療機関、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の発生状況の情報を得ることができている。また情報収集に努め随時対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・利用者は手洗い・うがい・マスクの着用を徹底しており、面会者が来られても手洗い・うがい・マスクが着用できるよう準備している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の要望をお聞きし一緒に検討し、利用者を支えていくようにしている。				コロナ禍以前は、事業所のテラスを活用して、家族会を実施するほか、花火大会や夏祭りなどの行事の際に、利用者と家族と一緒に食事をしたり、花火を鑑賞したりするなどの交流を図ることもできていたが、現在は感染対策等もあり、行事や家族会の開催は自粛をしている。家族との面会は、2階にあるホールで対応をしている。また、毎月利用者の体重の増減や血液検査結果、内服薬の増減、歯の状況から刻み食に変更したこと、そうめん流し時の利用者の表情や言葉などの情報を詳細に記載した書面に併せて、写真を添えて家族に送付し、利用者の近況や様子を伝えている。さらに、事業所の外壁塗装工事などの事業所の出来事は、運営推進会議や毎月のお便りで報告をするほか、家族の来訪時に、新人職員や異動した職員を紹介している。加えて、家族の来訪時に、職員は気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に意見や希望を伝え、相談できるような雰囲気づくりをしていること、家族から多くの意見や希望が寄せられ、可能な範囲で柔軟に対応をしている。今後、ホーム長は「感染状況を見ながら、行事や居室での面会などを再開したい」と考えている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	以前は、夏祭りや花火大会には利用者と食事をしたり花火を見るなど一緒に楽しんで頂いていたが、コロナ禍により家族の参加は控えて頂いている。	◎		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお便りで近況報告を行っている。面会時には記録を見て頂きながら日常の様子を伝えている。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時にはさりげなく伺うようにしている。意見箱を設置し不安内容などの収集に努めている。					
		e	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	認知症についての理解を深めて頂き、適切な接し方や対応について話し合うようにしている。			○		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	体調変化に伴うリスクについてを説明し利用者にとっての良い対応策を話し合い理解して頂いている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に相談して頂けるような声かけや雰囲気づくりに努めている。以前は家族が訪れたときにはお茶を提供しゆっくりと過ごしていただけるよう対応していたが感染対策ができる2階ホールで面会していただいている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には文章と合わせて説明補足を行い理解し納得して頂けるようにしている。改定がある場合はその都度、文書と口頭で説明し同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	体調面で施設の生活が困難になった症例があった。入院先の主治医と家族と一緒に話し合いを行い納得して頂いた。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。			○	以前は、地域の盆踊りや運動会、秋祭り、文化祭などに利用者と一緒に参加し、地域住民と交流を図ることができていた。今年は、マスクを常時着用できる利用者数名と職員が一緒に、盆踊りや運動会などの地域行事に参加することができ、利用者に喜ばれている。秋祭りの際に、神輿の来訪があり、利用者の喜ぶ顔を見ることができた。また、事業所は町内会までは加入していないものの、地域の清掃の回覧が届いた際に、職員は参加協力をしたり、利用者が行方不明になった際に、町内放送を頼んで、呼びかけてもらったりするなどの関係性も築かれている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	以前は地域行事や活動への参加をすることで地域の方々との交流。(盆踊り・運動会・秋祭り・文化祭・町内清掃など)が図れていたが、コロナ禍により地域行事は中止となっている。電話や訪問などで日常の挨拶は行うようにしている。			○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	必要時には町内放送をして頂ける関係作りができている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前は夏祭りや花火大会行事などお誘いはしていたが、コロナ禍により気軽に交流することは自粛している。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に立ち寄り頂けるよう運営推進会議の時に働きかけている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍により自粛していたが少しずつ支援していただけるよう働きかけを行っている。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍により協力して頂くのが難しくなっていたが、徐々に安全で豊かな暮らしができるよう地域の商店や美容院に協力していただけるよう働きかけを行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	コロナ禍により文書開催になっているが、活動内容等を報告し様々な意見やアドバイスを頂いている。	◎	/	○	コロナ禍以前に、運営推進会議は利用者や家族、町内会長、公民館館長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者などの多く参加を得て開催することができていた。コロナ禍や感染対策が続き、事前に会議の参加メンバーや全ての家族に用紙を送付して、意見を返信してもらい、その内容をもとに職員間で話し合った後に、議事録を送付している。令和5年10月から、働いている家族が多いことを考慮し、休日に集合形式の会議を再開したが、家族の参加状況は少なくなっている。今後ホーム長は、「家族の会議への参加が増やせるように、交通手段がない家族への支援などを検討していきたい」と考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	毎回利用者の状況や活動・出来事を報告している。外部評価の内容・目標達成計画の内容と取り組みを文章と口頭で報告している。参加者全員に感想や意見を伺い日々の取り組みやサービス向上に活かせるようにしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナ禍により文書開催となっていたが、メンバーが参加しやすい曜日や時間帯について配慮している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し全員が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすい玄関の入り口に掲示し、家族・利用者・地域の方々にも理念を伝えている。	×	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員全体が法人・内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	積極的に関内外の研修への職員の参加を促し、研修終了後のユニット会議を活用して、伝達報告をしたり、資料を回覧して情報共有を図ったりするなど、職員のスキルアップに取り組んでいる。また、一人ひとりに自己評価をしてもらい、職員自らが向上心を持って働けるよう努めている。さらに、令和5年の年末には、福利厚生で忘年会を実施することを予定している。現在、人材不足により職員が有給休暇を取得しにくい状況となっているが、ホーム長は、日頃から職員の状況を把握し、話を聞いたり、相談に応じたりするなど、体調管理やストレスの軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が働きながらスキルアップできるよう積極的に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員に自己評価してもらい個々の努力や実績・勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地区のグループホーム連絡会やケアマネ合同研修会に参加し交流をしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフとの面談する機会をつくり、体調やストレスについて問題ないか配慮している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	内部・外部研修に参加し虐待防止について学び、日頃の事例で検討する機会を設けている。虐待や不適切なケアの事例に基づいた勉強会やミーティングで意見交換を行っている。	/	/	◎	内外の研修に参加して、虐待防止などを職員は学んでいる。また、日々のミーティングを活用して、事例にもとに、不適切な言動を職員間で話し合うなど、理解促進に努めている。さらに、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ホーム長に報告し、内容に応じてミーティングやユニット会議を活用して、職員間で情報共有を行い、注意喚起や再発予防に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のミーティングでケアの疑問点や意見を話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員と面談を行い、疲労やストレスを感じていないか把握するようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を設け資料を配布して全ての職員が理解できるようにしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について話し合いの場を設け身体適正化委員会を実施している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望があっても、利用者の及ぼす弊害について説明し拘束を行わないケアの具体的な内容を示し理解を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	内部研修や外部研修で知識・理解を深めている。また、家族からの相談があれば情報を提供する準備はしている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターに相談できる関係づくりを築けている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	利用者の急変時の対応はマニュアルを作成し落ち着いた対応できる体制を整えている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急隊より指導を受け、実践できるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書作成しその日のうちに話し合い、ユニット会議でも再検討し事故防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎日のミーティングや勉強会で話し合い、安全な環境整備・ケアの仕方に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し職員は周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談・苦情があればマニュアルに添って早急に対応し書面に残すようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、事実確認を行い謝罪し今後の方針を伝え納得して頂けるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時などに話しやすい雰囲気・環境作りを行い、積極的に意見、要望、苦情等お聞きするようにしている。	◎		○	日々の会話の中で、利用者から「大根の煮物が食べたい」などの希望が出され、メニューを変更して対応するなど、可能な範囲で柔軟かつ迅速に対応をしている。面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族から意見や要望を聞くように努めており、意見を伝えてくれることも多くなっている。また、玄関に意見箱を設置しているが、コロナ禍で家族の来訪する機会が少なかったこともあり、投函されない状況が続いている。さらに、ホーム長は職員とのコミュニケーションを図ることを大切に考え、意見を伝えやすく、気軽に相談に応じるなどの環境づくりに努めている。職員から、「2階ホールに冷房がなく、暑いので対策してほしい」という意見が出され、設計上エアコンの設置は困難なため、冷風機を設置して快適な空間に改善するなどの対応も行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に意見箱を設置し、投函できるようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案などを直接聞くようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は一人ひとりから意見や提案を聞く機会をもち、利用者本意の支援をしている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、ホーム長が取りまとめて作成をしている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍が続き、職員だけの会議が続いていたこともあり、目標達成状況の取り組み状況のモニターの協力してもらうまでには至っていない。訪問調査の前月の令和5年10月から集合形式の会議が開催できるようになり、今後は目標達成へ向けた取り組み状況のモニターを呼びかけたり、利用者の様子を見てもらい、意見をもらったりするなど、出された意見を反映させながら、サービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題や問題点が明らかになると早急に毎日のミーティングやユニット会議で話し合っている。実現可能な目標を話し合い事業所全体で達成できるよう取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。報告し、いつでも閲覧できるよう施設内にて掲示している。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内で取り組みの成果について確認するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の対応マニュアルを作成し周知に努めている。				年2回、消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練を実施している。高台に立地する事業所は、土砂崩れの恐れもあるため、定期的に担架を使用し、1階から2階への垂直の避難訓練も行われている。また、水や食料、物品などの備蓄品を保管し、定期的に点検をしている。さらに、廊下には防災マップや避難経路図を掲示している。以前には、地区の防災訓練に、職員と利用者が一緒に参加協力をしたこともある。集合形式の運営推進会議が再開されたこともあり、継続して参加メンバーや家族と一緒に、災害の備えの意見交換をするなど、協力支援体制の強化に繋げていくことも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルに基づき、様々な時間を想定し安全に避難できるよう訓練している。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品など定期的に点検している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議の際消防署の方から訓練の仕方や避難方式等教えて頂き、訓練を行っている。	△	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の防災訓練があれば利用者も一緒に参加するようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	内部・外部研修に参加し運営推進会議などでテーマとして取り上げ講習を行っている。				以前は、集合形式の運営推進会議の中で、認知症や脳梗塞などをテーマに取り上げた勉強会や意見交換をしたり、地域の公民館で地域住民を対象に、認知症のことを話し合ったりするなど、情報発信や啓発を行う機会を設けることができていた。現在は、地域の介護支援専門員や会議のメンバーから相談が寄せられ、対応する程度に留まっている。また、会議や研修に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることはできている。今後ホーム長は、「感染状況が落ち着いた際に、実習やボランティアの受け入れに協力したり、市行政や地域包括支援センターから要請があれば、協力していきたい」などと考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議の際、相談や支援が行えることを伝えている。			○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍で夏祭りなどのイベントを開催出来ず交流の場を広げられなかった。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護人材やボランティアの養成があれば受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域関係者に働きかけ、イベントや地域活動に参加している。			○	